

2020年

8月8日(土)》

11月29日(日)

会場 | 文京区立森鷗外記念館

開館時間 | 10時～18時(最終入館は17時30分)

※8月30日(日)は9時より開館

休館日 | 8月25日(火)、9月23日(水)、10月27日(火)、11月24日(火)

観覧料 | 一般500円(20名以上の団体|400円)

・中学生以下無料、障害者手帳ご提示の方と介護者1名まで無料

・文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット(押印入)、友の会会員証ご提示で2割引

・その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

監修 | 須田喜代次(大妻女子大学教授、森鷗外記念会常任理事)

協力 | 公益財団法人日本近代文学館、世田谷文学館、

台東区立下町風俗資料館、文京ふるさと歴史館

●本展覧会の最新情報は記念館HP等でご確認ください。

鷗外と子どもたちが
綴った時々の暮らし

森家の 歳時記

{ 特 別 展 }



文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4

TEL 03-3824-5511 URL <https://moriogai-kinenkan.jp>

illustration : NAKAMURA Takashi

森家の 歳時記

鷗外と子どもたちが
綴った時々の暮らし



文

豪・森鷗外が観潮楼（現・文京区立森鷗外記念館）に家族と暮らしたのは、明治25（1892）年から亡くなる大正11（1922）年までのことです。

この間の鷗外の日記には、作家、陸軍軍医、父親・鷗外のさまざまな立場の日常が、淡々と記録されています。一方、鷗外の子どもたち（長男・於菟、長女・茉莉、次女・杏奴、三男・類）が後年に記した回想には、鷗外との暮らしが、明治・大正期の東京の風物とともに瑞々しく描かれています。

本展では、鷗外の日記や書簡、子どもたちの回想などをたよりに、森家の年中行事を通してその暮らしを照らし出します。また、大正2年の鷗外の日々、鷗外作品に描かれた季節を展覧します。一つの時代にも等しく時が流れ、季節がめぐります。森家が季節の移り変わりとともに営んだ観潮楼での暮らしや鷗外の季節表現は、現代のわたしたちが忘れかけている郷愁を呼び起こし、親近感を覚えることができるのではないのでしょうか。

鷗外の記録と子どもたちの記憶をつなぎ合わせることで浮かび上がってくる、正月、花見、川開き、避暑、クリスマスなど「森家の歳時記」をお楽しみください。

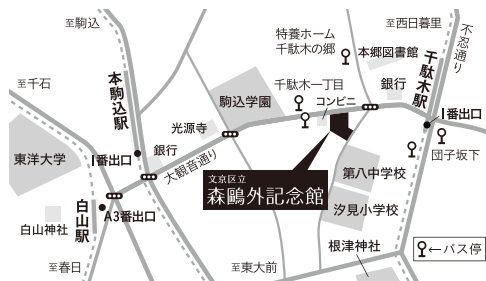


1. 雛人形（公益財団法人日本近代文学館蔵）鷗外が杏奴へ買ったとされる。【期間限定展示】

会 期 | 2020年8月8日(土)～11月29日(日)
開 館 時 間 | 10時～18時(最終入館は17時30分)
※8月30日(日)は9時より開館
休 館 日 | 8月25日(火)、9月23日(水)、
10月27日(火)、11月24日(火)
観 覧 料 | 一般500円(20名以上の団体 | 400円)
会 場 | 文京区立森鷗外記念館

●本展覧会の最新情報は記念館HP等でご確認ください。
●関連講演会、ギャラリートークの実施については、記念館HPでお知らせいたします。

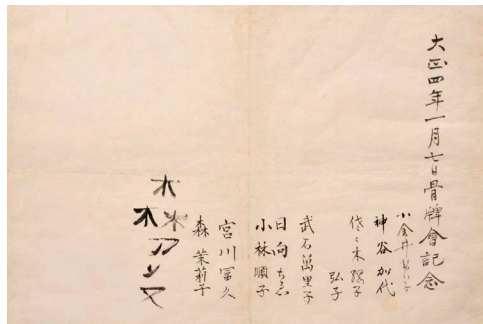
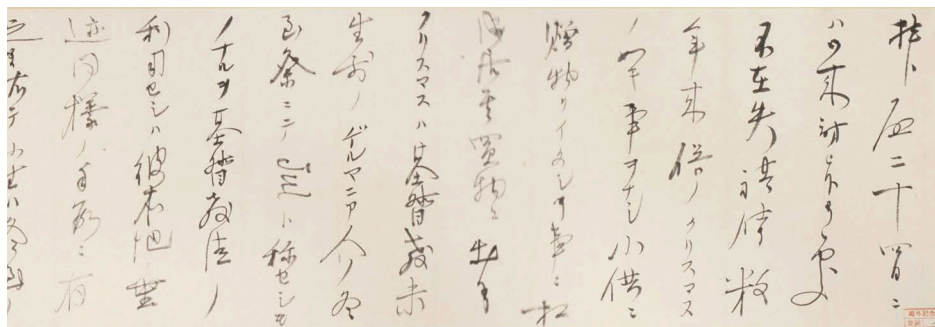
11月1日(日)は開館記念日です。展覧会をご観覧の方全員に当館オリジナルポストカードをプレゼントします。



○電車 東京メトロ千代田線「千駄木」駅1番出口徒歩5分
東京メトロ南北線「本駒込」駅1番出口徒歩10分
都営三田線「白山」駅A3番出口徒歩15分
JR線・京成線「日暮里」駅南口徒歩15分
○バス 都営バス草63番系統「千駄木一丁目」下車徒歩1分
都営バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分
B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特養ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分
※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

og
外
文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4
電話:03-3824-5511 URL:https://moriogai-kinenkan.jp
【モリネカフェ】10時30分～17時30分(ラストオーダー17時)



2. 鷗外筆賀古鶴宛書簡 大正7年12月28日付(部分) 子どものためにクリスマスプレゼントを買いに出かけたことが記されている。
3. 鷗荘にて 大正3年頃撮影 千葉県日在にあった森家の別荘。中央に座るのは於菟(24歳頃)。
4. 観潮楼縁側にて(『婦女界』12巻3号 大正4年9月掲載) 左から茉莉(12歳)、類(4歳)、杏奴(6歳)。
5. 森家カルタ会寄せ書き(世田谷文学館蔵)「大正四年一月七日骨牌会記念」は鷗外筆。茉莉、杏奴の名も並ぶ。【期間限定展示】